



梅花女子大学における「日本語検定」の取り組みについて

梅花女子大学 教育支援開発センター長

三木 雅博

梅花女子大学は、大阪府の茨木市にあるキリスト教主義の女子大学です。学生定員約1900名余りのこぢんまりとした大学ですが、文化表現学部（情報メディア学科、国際英語学科、日本文化創造学科）、心理こども学部（心理学科、こども学科）、食文化科学部（食文化学科）、看護学部（看護学科）の4学部7学科があり、教育内容は多岐にわたっています。



どこの大学でも、最近は専門的な教育とともに、社会に出て行く際に大切になってくる「社会人基礎力」をつけることに力を入れています。本学では、すべての学部・学科の学生に必要な「社会人基礎力」として、「日本語力」を位置づけています。「日本語力」は、コミュニケーションや情報発信、自己表現など、社会生活を送る上でかかせない、根本的な力だからです。

本学では、学生1人1人が自分の「日本語力」を知り、さらにそれを向上してもらうために、入学前プログラムから初年次教育へという流れの中で、日本語検定を利用しています。その具体的な方法は、次のようなものです（2013年度の例によります）。

まず入学前プログラムとして、本学への入学が決まった高校生全員に、学部・学科に関係なく「全学共通課題」として、教育支援開発センターから日本語検定初級用のテキストを送り、自学自習で問題に取り組んでいただきます（これと別に各学科からも入学前プログラムの課題が出されます）。4月に入学後は、本学独自の初年次教育科目「BAIKA セミナー」で、日本語検定を取り扱います。「BAIKA セミナー」は、新入生全員が受講する少人数のゼミナール科目で、大学の授業や学生生活へのサポートと、将来を見据えて4年間大学でどのように学んでいくかを考える、という二つの目的があります。後者の目的の中の、自己発見・自己啓発の一環として、自分の日本語力を確かめてもらうため、入学前プログラムで取り組んできた初級テキストを担当教員がチェックするとともに、授業の中で全員に4級の模擬試験を受験してもらいます（受験料は大学が負担しています）。この結果が担当教員から返却され、入学時点での自分の日本語力がわかるわけですが、その結果をもとにして、今度は各自で3級、2級など、本人の実力に応じて、本試験にチャレンジしてもらおうという流れです。2013年度は2級4名、3級91名、4級1名、計96名が受験しました（春季・秋季の合計人数です）。

入学予定者全員にテキストを配布して取り組んでもらったことを考えると、やや物足りない数字かもしれませんが、これからも1人でも多くの学生が本試験にチャレンジして、日本語力を高めていってもらうために、教育支援開発センターが中心になって、いろいろと工夫を凝らして行きたいと考えています。

